

山縣 修さん (広島県広島市佐伯区出身)
2017 年度 2 次隊 シニア海外ボランティア
派遣国：ケニア 職種：下水道
2018 年 12 月 9 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

原爆展 折り鶴作り人気

私は国際協力機構(JICA)のシニア海外ボランティアとして、ケニアの首都ナイロビの北 130 ㎞にあるエンブ市で、下水施設建設のエンジニアとして働いている。エンブ市はアフリカ 2 位の高さを誇るケニア山(5199 ㍎)の中腹、標高 1300 ㍎にある。ケニアの国名はこの山から名付けられている。乾期と雨期があり、赤道直下でも高地にあるため気温は日本の春か秋に似ている。



隊員の指導で折り鶴作りに挑戦する現地の人たち

ことし、ケニアの JICA ボランティア間の情報共有のための掲示板に「シアヤの病院での原爆展の手伝い募集」の掲載があり、8 月 6 日の展示活動を手伝うことにした。ケニアの西の果て、シアヤで活動している女性青年海外協力隊員からの募集だった。ナイロビからバスで 9 時間、私のいるエンブからナイロビまではマタツという 14 人乗りの小型のワンボックスカーで 3 時間かかる。かなりの距離だ。

片道 2 日がかりのシアヤまでの道はケニア国横断バス旅行だった。ケリチヨの美しい茶畑、雄大な「大地溝帯」、遠くに見えたビクトリア湖。自宅と職場を毎日行き来していただけの私には初めてのケニア国内旅行だった。

原爆展は病院の廊下でのポスター展示のほか、木の下に机を出し、千羽鶴を折って広島に送るという内容だった。折り鶴はケニアの親子に人気だった。これを通じて、少しではあるが、原爆について関心を持ってもらえたのではないのかと思っている。